

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年5月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2023年5月10日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より1.4ポイント悪化の▲20.2となった。

2017年9月以来69ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲17.9、当月と比べ2.3ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2023年6月～ 2023年8月
業況	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲18.8	▲20.2	▲17.9
売上	▲11.7	▲5.5	▲8.0	▲4.9	5.3	8.5	0.0
採算	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲21.0	▲20.9	▲19.4
仕入単価	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.4	▲67.4	▲63.6
販売単価	33.6	29.3	31.8	29.5	28.6	31.8	24.8
従業員	35.2	31.7	30.9	31.1	33.1	29.4	27.9
資金繰り	▲14.8	▲15.1	▲18.2	▲17.2	▲7.5	▲10.1	▲12.4

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2023年6月～ 2023年8月
建設	▲53.1	▲51.8	▲65.5	▲53.6	▲20.7	▲39.3	▲21.4
製造	▲28.6	▲19.3	▲27.6	▲32.1	▲20.0	▲23.4	▲26.7
卸売	▲20.0	▲7.4	▲16.7	▲10.3	▲9.4	▲10.0	▲6.7
小売	▲25.0	▲18.7	▲29.4	▲11.1	▲4.4	▲14.3	▲23.8
サービス	▲40.9	▲17.4	▲9.5	▲5.3	▲47.3	▲10.0	▲10.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同月より工事受注額が増加している。資材設計単価は、現段階では市場単価に合ってきている。今後の資機材・光熱費等の値上げが懸念事項。（総合工事）</li> <li>・工事受注の減少は一段と厳しさを増し、工事作業に係る人員の余剰感も出てきた。このまま受注量が下降線をたどると、売上は前年も減少傾向であったが更に厳しい。また、企業物価上昇分に見合う分は販売単価に転嫁できていなく利益面も厳しい。しかし、このような中でも、人材については将来を見据え即戦力(資格保有者)と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他）</li> <li>・建築単価の上昇による新築住宅の受注悪化に加え、賃上げ実施による人件費などの固定費増加により、収益力の低下は避けられない状況である。木材の価格上昇は落ち着いてきたものの、その他材料や設備品の上昇は依然続いており、建築価格への転嫁交渉や低廉商品への変更など対応に苦慮している。住宅新築マインドの低下による少ない需要の奪い合いが当面続くと思われ、建設業界の先行きは厳しい。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・百貨店など食品小売業において、試食販売が再開されつつあることは、今後に向け久しぶりのプラス材料と考える。（食料品）</li> <li>・従業員の不足。（家具・木材）</li> <li>・家庭電気料金の値上げが各方面に影響を与えている。秋口以降は不安。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の度重なる値上げで先行きが不安ではあるが、消費が上向きになってきているため現時点では悪くはない。だが、経費なども軒並み上がっているため、全体的には横ばいのような感じ。（繊維・衣服等）</li> <li>・輸入品の仕入が不安定、包装資材・調味料の値上げなどもあり、価格に転嫁できない。（飲食品）</li> <li>・今月の業況においては前年度と同等であった。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業況については、前年同期と比べ売上は下回っている。主たる顧客である営農者の注文も一巡した感がある。来月以降の見通しについては、既存の顧客からの紹介により一定の成果が期待できるものと思料する。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの終息により顧客の来店頻度が多くなりつつある。まだまだ天候の寒暖差があり売上には結びつかないが顧客のニーズに合わせた商品の品揃え、高度な接客技術で売上を伸ばしていきたいと考えている。（衣服身回品）</li> <li>・空港・観光土産店の販売は引き続き良好だが、店舗販売は頭打ち傾向。店舗販売が7割のため対前年比増加率は昨年ほどではなくなってきている。競合他社の店舗が旭川に出店、今後の動向が気になる。（食料品）</li> <li>・6月から9月末に向け、国の補助金が減額されていく方向で、採算が合う販売単価を維持出来るかが厳しいと見ている。（その他）</li> <li>・価格相場も下がったが、仕入れ価格が高い時期の在庫があるため、薄利の状況となっている。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーコスト・食材仕入れ等高騰の影響が大きい。値上げしてもとんとんあるいは、マイナス。（理美容・クリーニング）</li> <li>・業況は若干の回復を見せつつあり今後に期待するも、それ以上の経費の値上げや仕入れ価格の上昇で一息つけるのはいつになるのか。（ホテル・旅館）</li> <li>・決算期を迎え売上高は前年度並みを確保することが出来たが、人件費及び資材やエネルギー価格高騰により収支面は低下している。（その他）</li> <li>・行動制限のないゴールデンウィークで観光客も多く売上は上がってきている。一安心。（飲食）</li> <li>・人流は戻ってきており、前年の110%程度の収入は見込めるものの、コロナ禍の3年間を取り戻せるほどではない。経費項目の単価上昇・借入金返済負担も含めて考えると、資金面では厳しい状況が続くそうである。安定的な事業継続に向けて、人の不足と資金難は大きな課題。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI2.9 ポイント改善、採算 DI11.8 ポイント悪化、仕入単価 DI6.2 ポイント悪化、販売単価 DI7.6 ポイント改善、資金 DI7.1 ポイント悪化、従業員 DI9.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 18.6 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 5 ポイント、建築業 100 ポイント悪化となった。自社の職員不足と外注作業員不足のため、労働時間の短縮が課題との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI10.0 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI6.6 ポイント改善、販売単価 DI13.3 ポイント改善、資金 DI3.4 ポイント悪化、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 3.4 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 1 ポイント改善、食料品、印刷・出版横ばい、家具・木材 17 ポイント悪化となった。客先の指し値が厳しくなってきたとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.7 ポイント改善、採算 DI2.5 ポイント改善、仕入単価 DI3.4 ポイント悪化、販売単価 DI7.5 ポイント悪化、資金 DI3.7 ポイント悪化、従業員 DI1.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.6 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材 14 ポイント改善、繊維・衣服等、その他横ばい、食料品 13 ポイント悪化となった。新型コロナウイルスが 5 類感染症に移行したことを受け、社内のマスク着用義務や集会規制の緩和を行ったとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI27.4 ポイント悪化、採算 DI15.9 ポイント悪化、仕入単価 DI12.4 ポイント改善、販売単価 DI2.0 ポイント改善、資金 DI9.0 ポイント悪化、従業員 DI14.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.9 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 6 ポイント、自動車 14 ポイント改善、衣料品 50 ポイント、その他 26 ポイント悪化となった。商品の値上がりによる販売点数の減少。経費類値上がり分の価格転嫁が不十分との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI49.2 ポイント改善、採算 DI31.6 ポイント改善、仕入単価 DI1.6 ポイント悪化、販売単価 DI1.8 ポイント悪化、資金 DI16.8 ポイント改善、従業員 DI2.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 37.3 ポイント改善となった。業種別では、飲食 25 ポイント悪化、その他、整備業横ばい、理美容・クリーニング 117 ポイント、ホテル・旅館 95 ポイント、運送 17 ポイント改善となった。お客様は戻りつつあるが、スタッフ不足で困っているとの声も寄せられている。</p>